

企画展が面白い ぜひおいでください!

まもなく開催の企画展

かごしまの落葉樹

10月4日(土)～11月30日(日)

秋といえば紅葉。春に芽吹き夏にいっぱい働いた葉が色づき、そして冬に備えます。日頃は目立たない落葉樹たちがスポットライトを浴びます。

さて、冬も暖かい鹿児島では落葉樹を身近に感じる人は少ないのかもしれませんが、鹿児島にも落葉樹はたくさんあります。



南限のブナ林

確かに落葉樹林帯と呼ばれる冷温帯の気候は標高が1000mを超える紫尾山、霧島山、高隈山、屋久島の地域にしかありません。でもそこにはブナやミズナラ、ハリギリなどの森があり、日本の南限地となっています。これらの林の中でシラキやナナカマド、コミネカエデなどの紅葉は見事です。

鹿児島の落葉樹は標高の高いところばかりでなく、谷や川の周辺にもケヤキやハルニレ、ヤナギ類が林を作ります。

それ以上に鹿児島で最も多く落葉樹があるのは、実は里山や道路周辺です。県本土だけでなく亜熱帯の離島の隅々まで落葉樹はあります。耕作をやめた畑地、伐採した森、土砂崩れの起こった土地など自然がひっかき傷を受けたところに生えています。そこは、光を受けて種子が発芽し、急激に成長するパイオニア植物と呼ばれる落葉樹のたまり場になっているところ



です。パイオニア植物はアカメガシワやネムノキ、ゴンズイ、アオモジなどそうい

蔓植物とトゲを持つ落葉樹との争い

ばいつも近くにいたよねという木々ばかりです。

こんなところには木々に寄りかかって急激に成長する蔓植物も多く、これから逃れるために落葉樹もトゲを持って応戦するなど、光を得るための生存競争が激しい世界です。

人々はこの身近な土地にすむ落葉樹たちを利用してきました。これらの植物を食べたり薬にしたり、生活のための道具を作ったりするなど多様な利用方法には、なるほどと唸ります。

たとえばキリは材が軽く、加工しやすく、ひずみも少なく、保温力があつたためウキや家具、道具の取っ手などに、クワは絹糸を作るカイコのえさとして葉を、甘い果実を食用に、固い材を薩摩琵琶の胴部などに使っています。

この企画展では落葉樹の多様性や生態、人とのつながり等を紹介しています。自然の中での巧妙なつながりそれぞれの落葉樹の特性を利用して文化が生まれたこと等おもしろい発見があることでしょう。

これからの企画展

かごしまの黒にせまる

12月20日(土)～3月1日(日)

皆さんは「黒」と聞いて、何を思い浮かべますか。最近では、黒豚や黒牛などの畜産物はもちろんのこと、黒酢や黒麹仕込みの焼酎など、黒にまつわる鹿児島の特産品は大人気で、まさに「黒ブーム」と言ってもいいくらいです。

自然の中にも、黒い鉱物や黒い生物がたくさんあり、南方から流れてくる海流の



鉄浜海岸(種子島)の黒い砂鉄

「黒潮」は、海の恵みを私たちにもたらしてくれています。

このような、「黒」にまつわる鹿児島の自然と人との関わりについて、様々な観点で紹介します。

企画展「かごしまに生きた古生物たち」の思い出

平成26年度夏の企画展「かごしまに生きた古生物たち」は、7月26日～9月15日まで実施されました。このうち7月26日～8月31日までは、MBC南日本放送の企画展「世界恐竜展」が、鹿児島県歴史資料センター黎明館で開催されたため、互いの企画展を「恐竜」をテーマにコラボさせ、それぞれが相乗効果によってたくさんの方々に興味を持っていただけるようにしました。具体的には、黎明館一県立博物館本館一県立博物館別館の三会場をスタンプラリーで結び、お客さまに特徴あるそれぞれの会場を見ていただくよう、MBCと連携しました。さらに別館のプラネタリウムでは、創作星物語「恐竜物語II」を制作・上映し、これにより中生代の鹿児島からはるかな宇宙までを想像する、壮大な空間演出を目指しました。しかしこれは並大抵なことではありません。全職員一丸となって、お客さまにご満足いただけるような接遇を目指し、また事故がなく、清潔な会場になるよう管理に努め、この大きな目標に少しでも近づくよう努力をしました。その中で、スタンプラリーの景

品に悩んでいた時、全職員で知恵を出し合い、4種類の「恐竜カード」を1万枚制作・配付することとしたのですが、その結果、カードを手にして喜ぶ子どもが続出しました。

9月13日～15日には、鹿児島で日本地質学会が実施されました。ここで地球科学研究者に、県立博物館で所蔵されている貴重な標本を知っていただくこと、鹿児島大学総合研究博物館・産業技術総合研究所と協力し、この企画展の中に特別展示コーナーを作りました。ここで貴重な鹿児島の化石を展示し、郷土の自然の奥深さを十分にアピールできたと考えています。



「古生物展」ミュージアムトーク

博物館まつりを支えてくださったボランティア

2014年5月18日、5回目となる博物館まつりを実施しました。前日には天気が危ぶまれ、雨天対応の準備もしましたが、当日はほとんど降ることなく実施できました。

今年の博物館まつりでは、ボランティアとして参加してくださった中学生・高校生・一般の方が65名に上りました。博物館まつりでは1日で丸ごと博物館を感じてもらおうと、たくさんの方々の行事を開催します。しかし、職員だけでは運営しきれず、どうしてもボランティアの方々の力に頼らざるをえません。



スズメバチの巣解体ショー

今回多数の方に協力していただいたおかげで円滑に運営でき、来場者からも好評でした。

たとえば、予定では午前午後1回ずつしか計画していなかった天文教室でしたが、「プラネタリウムの投影を待つ間にもやりたい」という要望に応じて、急遽いつでも参加できるように変更しました。これができたのも、6人の高校生が分担しながら個別に工作の準備、説明をしてくれたからです。

博物館として残念なことは、ボランティアとして参加してくださった方々の感想を聞く機会を設けられなかったことです。まつり当日はテントや会場の撤去でバタバタとしている中で、解散式を行います。ボランティアで経験したうれしかったこと、つらかったこと、改善して欲しいことなどを直に聞き、来年以降に生かす機会を何とかつくろうと思っています。

博物館は一般の方々による年間を通した「ボランティアの会」も行っています。ホームページにて詳細をご確認の上、ぜひお申し込みください。